2022.02.03. 木曜礼拝　主は私たちの苦悩を感じておられる
イザヤ 63 章＆聖餐式
JD ファラグ牧師

こんばんは。週半ば「聖書の学び」へようこそ。ご参加くださり、大変嬉しいです。木曜日の夜は、聖書を節ごとに学び、今夜は「イザヤ書 63 章」です。先週 62 章を学び終えました。今夜は、聖餐式を一緒にお祝いする時間を十分取りたいので、1 章だけにします。オンラインでご覧になっている方は、「聖書の学び」の最後に一緒に与れるよう、今から聖餐式セットをご用意ください。皆さんにシェアしたいのは、実に世界中の多くの人々が、私たちと共に聖餐式をしていますが、日本の J.B.の写真を見せたいと思います。J.B.のことをご存知の方も多いと思います。彼女はここにいましたね。彼女がここへ来て、分かち合ってくれたことを光栄に思います。彼女は日本のミニストリーの一員です。彼女は字幕翻訳していて、とても愛らしいんです。日本語で、預言・アップの吹き替えをしているのですから。彼女がここで分かち合った時おられた方、私はいつも、いや滅多にないことですが(笑)　声が激しくなるでしょ。すると彼女の日本語の吹き替えも激しくなります。とてもかわいいんです。ー(笑)ー　お～なんということ。
とにかく、彼女がメールをくれて、私が皆さんに共有したいと思った写真を送ってくれました。日本で彼らが一緒に聖餐式をしている写真です。左側が、J.B.ですね。それから真ん中が、彼女がポケットティッシュの先駆者と呼ぶたいちさん、その隣がけいいちさん。お名前を正しく発音しているのを願います。
彼らは幼馴染で、J.B.がここにいたとき話してくれたように、「救いの ABC」を付けたポケットティッシュで伝道しています。そして現金の施しもしていて、毎週末、ホームレスのところへ行き、配布しているのです。それから右側が、ゆきさん、けいさん、まいさん。ゆきさんが伝道しているのは、、、このミニストリーの名前を「ポケットティッシュ・救いのパック」？にしないといけませんね。分かりませんが、「救いのポケットティッシュ」？？　とにかく、それはまた報告します。たぶん J.B.と相談しますが、ゆきさんも、毎週末ポケットティッシュで伝道していて、それから、まいさんは私たちの日本語翻訳チームの一員で、日曜日の第二礼拝「聖書の学び」を担当しています。J.B.が、第一礼拝「聖書預言・アップデート」まいさんが、第二礼拝「聖書の学び」です。とにかく、（日本チームの）あなたがたにエールを送りたいと思います。あなたがたをとても愛しています。あなたがたが一緒に聖餐式に参加して下さるのが大変うれしいです。神の祝福がありますように。あなたがたが主のためにしている全てに感謝します。それでは、まずお祈りしましょうか。今夜の私たちの時間を神が祝福下さるようお願いしましょう。
天のお父様。本当に本当にありがとうございます。私たちがそう言って祈るたび、まだまだ不十分に思えますが、主よ、木曜日の夜、信者の体として集まる時間があることを、ただただ感謝します。ただ聖書を開き、心を開き、思考を開き、特に私たちの思考を。なぜなら、私たちは、忙しい生活の中で、特にこんにちの世界で起こっていることに気を取られがちだからです。聖霊が私たちの集中力を高め、あなたに全集中するよう助けてください。そうすれば私たちの思考は彷徨わないのです。主よ、今夜あなたが私たちのためにご用意してくださったものを何も逃したくありません。なぜなら主よ、あなたは今夜、いつものように語ってくださいます。あなたがそれをしてくださるのに大きな期待を持っています。主よ、あなたがそれをしてくださる時、聞く耳、受け取る心を持ちたいのです。今夜ここで、あなたの御言葉で私たちに語り、導いて下さる事が何であっても。ですから主よ、そう語ってくださいませんか？　あなたのしもべが聞いています。イエスの御名によって祈ります。アーメン。それでは！　今夜、私たちの前のこのイザヤの章は、7 年間の患難時代の終わりにイエスが再臨される事についての預言です。非常に強力で、

興味深いことに、主の復讐の日を語ると同時に、主の愛に満ちた優しさをも語っています。これを私は「クリスチャン信仰の逆説」と呼びます。その意味を説明します。逆説の意味はわかりますよね？　矛盾語法です。こちら側では、神の復讐、神の御怒りがあり、反対側では、神の愛ある優しさと神の慈しみがある。それが逆説です。今夜、この章に織り込まれているものを見ていきます。これから見ることができる核心の１つは、主の愛と優しさです。それが、少なくとも飛び出してきます。今夜、私たちの聖書ページからそれが飛び出してくることを願います。それが神の御怒りであり、神の裁きであり、神の復讐だからですが、神の愛が故の、神の御怒り、神の裁き、神の復讐なのです。皆さん繋がりますよね？　再度、それが逆説なのです。しかし主は、私たちへの愛が故に裁かなければならないのです。贖い主であり、主の愛に満ちた優しさ故に、主は、義の者に加害した不義の者を裁かねばならないのです。自分の義ではありません。キリストにおける義の者、キリストに与えられた義なる者のために。再度、それを今から見ていくのですが、9 節は、9 節に入ったら、少し時間をかけたいと思います。私にとって、それこそが重要な核心で、多くの核心の１つだからです。「私たちの苦悩の中で、主が、私たちの苦悩を感じておられる」のです。そんな風に考えたことありますか？　つまり、考えてみれば、私たちはキリストの体なのですから、納得できますよね。イエスが頭です。ではそれを、物理的に比較してみましょう。体の一部分が痛くなると、、、私は痛みに対する耐性が低く、家内は、痛みに対する耐性が非常に高いです。4 人の子どものうち 3 人は、自然分娩です。私は彼女のために痛みを感じました。間違いなく、子どもたちが生まれた時、出産した彼女を見て、改めて尊敬の念を抱きました。お～、私にはとても苦痛でした。つまり、彼女は痛みに対する耐性が高いのです。私は耐えられません。私の祈りの言葉で祈り、「ああ、主よ、これは耐えられません。」「がんばれ、弱虫ちゃん！」とにかく…（笑）しかし、体の一部分が痛むと、体全体がそれを感じます。自分の体の中で痛みがある時、頭を含む体全体がそれを感じます。それが今回の学びです。繰り返しますが、主の愛に満ちた優しさ、主の憐れみについてを語ります。主はご覧になり、気にかけ、聞いておられ、動いて下さいます。主は、ご自分の子どもたちが苦しんでいるのを黙って見ているわけではあられません。主はそれを感じ、知り、ご覧になり、気にかけ、そして、そのことについて何かをしてくださいます。では準備はいいですか？　始めますよ。OK もらってませんでしたが。はい、よろしい。

では！先週、誰かが「ノー/No」と言ったと思いました。ああ、わお～と思いましたが、彼らは、「行け/Go」と言ったんだと思います。ここにおられる方、「行け/Go」と言ってください。そう言ってくれれば、始めます。よろしい。１節、

イザヤ　63

1「エドムから来るこの方はだれだろう。ボツラから深紅の衣を着て来る方は。…

これは、イスラエルの敵、現在のヨルダンで知られる地域、エドム、ボツラを象徴しています。皆さんにここにあるのを覚えておいてほしいのですが、ボツラの意味と関係しています。名前は性質を表し、ボツラは、"葡萄の集まり "という意味です。すぐに戻りますので、お付き合いください。

…エドムから来るこの方はだれだろう。ボツラから深紅の衣を着て来る方は。その装いには威光があり、大いなる力をもって進んで来る。」…

答えは？

…「わたしは正義をもって語り、救いをもたらす大いなる者。」

それがこの方です。あ～この章では、1 節から素晴らしいスタートを切っています。繰り返しますが、こ

れは預言で、質問の形をとっていて、その後、主ご自身がご自分で「わたしだ」と宣言して答えておられます。誰なのか？「わたしは正義 を語り、 （非常に重要） 救う力のある者」逆説があります。「裁く力があり、救う力がある」皆さんはもっと見つけるでしょうが、私が思いついたリストを紹介します。
主は、裁き、栄光、偉大さ、強さ、正義のために来られ、救う力を持っておられます。わお～分かりました。私の質問に答えてもらいましたね。誰が来るのか？という質問、主が来られるのです。主は栄光の中で来られるのです。大いなる力をもって進んで来られます。主は正義を語る方であり、 恐らくもっと重要なのは、救う力のある方なのです。救う力のある方。では 2 節、質問その 2。

イザヤ　63

2「なぜ、あなたの装いは赤く、衣はぶどう踏みをする者のようなのですか。」

答えは、3 節、

3「わたしはひとりでぶどう踏みをした。諸国の民のうちで、事をともにする者はだれもいなかった。…

主だけが救えるのです。主のような人はいません。主よ、あなたのような方が他にいるでしょうか？
（詩篇　35：10 参照）
「わたし一人でしました。」「わたしだけがあなたのすべての賞賛に値します。」それがここで仰っている事です。そして理由は、

…わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、わたしの装いをすっかり汚してしまった。

これが理由です。「だから、わたしの装いは赤いのです。だからわたしの衣は、ぶどう踏みをする人のようなのです。」当時のぶどう踏みがどんなだったか知っていますか？　ぶどうを取ってワインを作るのですが、ワインはどうやって作るのか知っていますよね？　彼らはワインプレスに入って、踏むのです。私はそんなワインを飲みません。とにかくワインは飲みませんが、きっと飲みませんよ。それが私の抑止力になっています。「私は結構です。結構です。」彼らはそこに入り、足で、ぶどうを潰してワインを作ります。彼らの衣服、彼らがそれを行うときに身に着けるものが、彼らがワインプレスから出てきたとき、つまり、真っ赤になっているのです。イエスが繋げておられるのは、、、ところで、今夜ここで見るもう 1 つのことですが、皆さんが惑わされるのではなく、実際に探してみてほしいのが、少なくとも探してみると、ここには「三位一体」が見えてきます。この 1 章に、父と子と聖霊が非常に具体的に描かれています。また、この章の全体に織り込まれています。さて、それではこれは何なのでしょうか？　そう、イエスは再臨されるご自分を、衣を汚され、その衣に血/ぶどうを振りかけられた人のようだと例え、それが、ワインプレスにいた人の衣服が真っ赤になる理由だと仰っています。黙示録は、旧約聖書からの引用が約 90%以上を占めていると言われていると言ったら、皆さんどうですか。ヨハネの黙示録の 90 数%が、旧約聖書の中に書かれていて、このヨハネの黙示録 19 章にもそのような記述があります。13 節から 15 節までを読みたいと思います。これは、再臨での主の帰還の預言的記述です。

黙示録　19

13 その方は血に染まった衣をまとい、その名は「神のことば」と呼ばれていた。

14 天の軍勢は白くきよい亜麻布を着て、白い馬に乗って彼に従っていた。

15 この方の口からは、諸国の民を打つために鋭い剣が出ていた。鉄の杖で彼らを牧するのはこの方である。また、全能者なる神の激しい憤りの”ぶどうの踏み場を踏まれるのはこの方である。

分かりました。

このことについて、もう少しここで話したいと思います。4 節、さらに良くなります。
イザヤ　63
4 復讐の日がわたしの心のうちにあり、わたしの贖いの年が来たからだ。
ここで止めます。これが逆説です。「待ってください。復讐の日があなたの心のうちにある？贖いがあなたの心にある？」私にとって、主の心の中の贖いに相対して、主の心の中には復讐があるという意味で、まさに逆説中の逆説の 1 つと言えます。なぜ、彼らに正義と復讐を与えられるのか？　贖罪のためです。その繋がりが分かりますか？
「復讐はわたし（主）のもの。」（ローマ　12：19 参照）
ええ、待ちますよ。本当は今すぐにでも話したいのですが、待ちます。誰かにこう言われるのって、嫌じゃないですか？「お～そうそう、あ！言っちゃだめだ。まだね。」5 節、
5 見回しても、助ける者はだれもなく、支える者がだれもいないことに唖然とした。それで、わたしの腕がわたしの救いとなり、わたしの憤り、それがわたしの支えとなった。
6 わたしは怒って諸国の民を踏みつけ、わたしの憤りをもって彼らを酔わせ、彼らの血の滴りを地に流れさせた。」
OK、これでもう話せますよ、もう少しでね。
7 私は主の恵みを語り告げる。主の奇しいみわざの数々を。主が与えてくださったすべてのことを。そのあわれみと豊かな恵みにしたがって与えてくださった、イスラエルの家への豊かな恵みを。
笑ってしまってごめんなさい。でも、こう不思議に思うのです。「待って。これって同じ章なの？　主の復讐、神の御怒りはどうなったの？　主の愛に満ちた優しさを告げるの？　え～、どこ？　何か飛ばしてしまった？どうなっているの？」そう、私たちは実に、ある種の角を曲がった感じです。これは祈りであり、神の裁きを前にしたときに生まれるもので、神の裁き、主の復讐、主の裁きに直面して、彼らは、主の愛ある優しさ、主の偉大な善良さを思い出しているのです。覚えておいてください。これは私が少し時間をかけたいことです。 8 節、
8 主は言われた。「まことに、彼らはわたしの民、偽りのない子たちだ」と。こうして主は彼らの救い主になられた。
この 8 節の「偽りのない子たちだ」には、もはや主を欺いたり失望させたりすることはないという意味が込められています。ヘブライ語ではちょっと複雑ですが、言ってみれば、「翻訳で失われた」教科書的実例です。そう、ヘブライ語でこれは、思うに、実を結ばない木に失望するある種の慣用句です。主が仰っているのは、「その時彼らは、実を結ばずに失望する木のような存在ではなくなる」ではここでもう一度、「神の復讐」と「神の慈悲」の逆説に戻りましょう。この祈りは、ある種、章の中に飛び込んで、神の復讐という話を中断するようなもので、と思っていたら突然、神の愛に満ちた優しさについて書かれているのです。どうしたのでしょうか？　ではここで少し考えてみましょう。1 つ目、再度これは逆説です。しかし 2 つ目に、このような時にこそ、神の御手を言わば、神の重い御手を見ます。そういう時、忘れてしまいがちだから、主の善良さを忘れないようにしたいと思います。こんな風に言えるかもしれません。今日はこんなことを考えていました。神の良さを思い出すだけでなく、「主よ、いつだったか覚えていますか？」と祈ることは全く悪い事ではありません。どういう意味ですか？「神が忘れてしまわれたのですか？」いいえ。今の私が将来の不確実性に直面しているから、過去に主がしてくださった善意を思い出すのです。神は、昨日も今日も、永遠に変わらない方だと分かっています。昨日の神は？　良い方、

愛に溢れる優しい方です。今日の神は？　良い方、愛に溢れる優しい方です。この先未来の神は？　良い方、愛に溢れる優しい方です。私の言いたかった事が分かりますか？皆さんユーモアで、分かったと言ってくれませんか？　もう一度言えるかどうか分かりませんから。これは、まさに主がこれからなさろうとしておられることで、これから見ていきます。では 9 節、

イザヤ　63

9 彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、主の臨在の御使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって、主は彼らを贖い、昔からずっと彼らを背負い、担ってくださった。

覚えてますか？　お～はい。。。よく覚えています。主がどういうお方で、どのようにされるか、なんと美しい描写でしょうか。「私たちが悩んでいるとき、主も悩んでおられるのですか？」はい。「私たちが傷つくと、主も傷つくのですか？」はい。「私たちが苦しんでいるとき、主も苦しみを感じておられるのですか？」はい。どうやって、そんなことが可能なの？　いやいや、主は私たちを愛しておられます。とても愛しておられます。主の哀しみ、、、他の翻訳では違う表現に、なっているかもしれませんが、現代の私たちにとって、この言葉は否定的な意味合いを持つ言葉かも知れません。私たちのことを感じてくださっている、可哀そうだと思ってくださっている、と理解したほうがいいかもしれません。私たちが苦悩するとき、主の愛と私たちへのお気持ちの中で主が苦悩されるとき、何をしようとされるのでしょうか？ああ、主は私たちを贖い、私たちを支え、背負って下さるのです。9 節の終わりにある鍵は、”昔からずっと”言い換えれば、「過去にわたしがあなたにしてきたことを、するのです。こんにちもあなたのために、そしてこの先いつもあなたのためにします。」そして 10 節、この節がなければいいのですが、あるんですよね。しかし（これが下り坂なのを知ってますよね？）

10 しかし彼らは逆らって、主の聖なる御霊を悲しませたので、…

何というか、、、補足的に言っておかねばなりません。聖霊を悲しませると、聖霊を消してしまいます。私たちは両方やり得ます。聖霊を冒涜することもあります。聖霊を冒涜したかどうかを問うなら、聖霊を冒涜していませんが、聖霊を冒涜した場合は、聖霊を冒涜したかどうかは聞かないからです。今夜私は、本当に絶好調です。再度、分かったと言ってくださいね。私はもう一度言えるかどうか分からないので。でも要点は分かると思います。では、これを少し話してみましょう。話す必要があると思います。そして、聖霊を悲しませることについて話しましょう。聖霊を消してしまうことについて是非話したいと思います。聖霊を悲しませるとはどういうことでしょうか？OK。これは少し厳しい話になりますが、皆さん、聖霊があなたの内に住まわれ、あなたが見るものすべてを見て、あなたが知るものすべてを知り、あなたが聞くものすべてを聞き、あなたがする会話に関わっておられることを認識していますか？　私たちは聖霊を悲しませてしまいます。こんな風に想像してください。説明の良い方法であるのを願いますが、聖霊がこんな風なのを想像ください。「お～　いけません。。。あ～」それが聖霊を悲しませることです。聖霊が私たちに住まわれているからです。私たちは聖霊がおられ、聖霊は私たちの中に住まわれています。私たちは、どこに行くにも、どんな活動に参加するにも聖霊が一緒です。お～どれほど頻繁に　私たちは聖霊を悲しませているのでしょう。聖霊を消してしまうことについては？　ええ、より良い描写ではありませんが、まるで火を消すのと同じです。火を消すには 2 つの方法があります。無視すると、出て行かれます。水をかければ、消してしまいます。ですから私たちは、聖霊に対してもそのような傾向があります。私たちが無視して、聖霊を消してしまうのです。私たちは生活の中で何かをして実際に聖霊を消してしまうようなことを生活の中に取り込んだりしてしまいます。その炎、聖霊の火、聖霊の力を消してしま

い、私たちは、聖霊を消し去ることで、聖霊を断ち切ります。そうなると、自らの危険を冒すことになります。今やもう、その御力の源がないからです。消されてしまって、追い出されたからです。悲しませるだけでなく、消されてしまったから。では 10 節を続けます。

…主は彼らの敵となり、自ら彼らと戦われた。

11 そのとき、主の民は（ここです）　**いにしえのモーセの日を思い出した。彼らを、ご自分の群れの牧者たちとともに海から導き上った方は、どこにおられるのか。…**

群れの羊飼いと紅海の話です。

…その中に主の聖なる御霊を置いた方は、どこにおられるのか。

12 その輝かしい御腕をモーセの右に進ませ、彼らの前で水を分けて、永遠の名を成し、

13 彼らに深みの底を歩ませた方は、どこにおられるのか。荒野の中を行く馬のように、彼らはつまずくことはなかった。

14 谷に下る家畜のように、主の御霊が彼らを憩わせた。…

この 14 節の後半をよく聞いてください。

…このようにして、あなたはご自分の民を導き、ご自分のために輝かしい名を成されました。

皆さん分かりましたか？「あなたがたのためにしているわけではありません。わたしは自分の名のためにしているのです。あなたがたのためにしているのではありません。あなたがたにも関わらず、しているのです。わたしがこれをするのは…」なぜならモーセが、いつも祈っていたのが分かります。「主よ。」実は、その記述があります。驚愕するのが、神が基本的に知っておられ、神は終わりの事を初めから知っておられます。モーセがこの非常に寛大な申し出を断ることを知っておられました。しかし本当に進んでモーセに仰いました。「最初からやり直したいので、モーセがその者になる」（申命記　9：14 参照）

私がモーセなら、神は決してこのことを私に仰らないでしょう。私ならこんな感じです。「素晴らしいアイデアです。それ好きです。」人々が不平や不満を口にしていたので、神はそれを受け取られました。

「もういい！わたしはあなたに約束を伝え、彼らとの関係を終わらせる。」わたしは、「はい、そうしましょう。どこに署名すればいいですか？」モーセはそうではありません。「いけません。神よ。そうなさってはなりません。」（申命記　9：26 参照）

それが魅力的に聞こえる通り、私の肉がそれを大好きなように、私たちの肉はそれを大好きですよね？そんなことをしたら、どうなるか分かりますか？　噂が広まってしまいます。「ああ、これが彼らの神の民への扱いなのか。じゃあ、興味ないよね。」逆に言えば、神は、、、モーセはこう言います。これは、とてもとてもゆるい言い換えです。モーセは、主にこう言います。

「逆に、彼らにもかかわらず、彼らを滅ぼすのではなく、あなたが彼らに慈悲を与えられるなら、良い噂さが広まるでしょう。そして、反対が真実になります。彼らはこういう事を言うでしょう。『わお～聞いたか？彼らの神は、彼らに何もされなかったんだって。』」（申命記　9：28～29 参照）

理解すべきは、当時崇拝されていた偽りの神々は、すべて、ええ、生々しい話はしたくありませんが、恐ろしい、考えられない、言葉に出来ない神でした。しかしこの神は違う。慈悲深い神です。愛のある神です。優しい神で、恵み深い神です。民が反逆して、聖霊を悲しませた後、恐らく聖霊を消してしまった。彼らは反抗的な民だった。神は彼らを滅ぼすことなく、憐れみを与え、休ませ、紅海を渡り、エジプトの奴隷状態から救い出し、荒野を経て、約束の地へと導いてくださった。なぜそうなさったのか？　それが、神がどういうお方であるかだからです。神のご栄光のため、神のご栄光ある名のためです。もう 1 つ、

これまで触れてきたことを指摘しておきたいのですが、非常に重要で、自分の祈りの生活での個人的な経験からお話します。ここには祈りに関して強力な原理があるからです。祈っているとき、過去に神が自分にして下さったことを思い出すのはとても適切です。「もう終わりだ。ここから出られない。乗り越えられない。これは本当にひどい。これが終わり方だ。」と思う時、「ちょっと待ってください。そう慌てずに。あなたの人生に別の時期がありましたよ。覚えていますか？　あの時、あなたは同じことを考えていたのを覚えていますか？　神は奇跡的にあなたを助けて下さいました。紛れもなく神のご栄光の為なさったのです。他に方法がなかったのだから、自然に説明しようとしても説明がつかなかったでしょう。なぜなら、神がなさったのは超自然的なことだったからです。覚えていますか？」「お～はい。。。」ダビデについて考えます。本当に私のお気に入りです。もちろん、どれもお気に入りですが、彼がまだ 10 代の頃、父親から戦場に行って来なさいと言われた時のこと。食料を届けるためですが、父親は息子たち、ダビデの兄弟がどうしているかを知りたかったのです。彼には 3 人の兄が戦場にいました。メールやソーシャルメディアがない時代なので何も投稿されていません。何が起こっているのか分からなかったのです。そこで父親は、息子たちへの伝言と、栄養と滋養を与える食料を持たせ、返事を持って帰って来るようダビデを送りました。それでダビデがやって来ます。彼はまだ 10 代の小さな男の子で、羊飼いの少年です。その戦場にやって来て、そこでダビデを迎えたのは、一番上の兄、長男エリアブでした。その兄さんは何と言うでしょう？「ここで何をしているんだ？家に帰れ、このチビ助め。ここは男の戦場だ！何をするのか？家に帰れ。」（第一サムエル　17：28 参照）

ああ、兄さんは小さな弟ダビデを見下しています。これは普通の兄弟喧嘩ではありません。この長男は、末っ子のダビデに恨みを持っています。理由はご存知ですね？　サムエルが、サウル王の後継者イスラエルの第二の王を任命するため、父親エッサイの家に行った事を思い出してください。エリアブは長男。文化的に、彼が後継者なのです。候補本命は、紛れもなく長男エリアブ。背筋を伸ばして立ち、サムエルにイスラエルの王として任命されることを期待していました。サムエルは、ウリムとトンミムを用意し、それが誰なのか、エッサイのどの息子なのかを主に尋ねました。エリアブには何も起こりません。彼の心中は察するに余りあります。次に次男です。年齢や習慣に従って、7 人の息子たちが並び、サムエルは列を最後まで進んでいきます。彼らの誰もが、イスラエルの王として油を注がれません。それでサムエルは、実は自分でも少し呆れてしまい、エッサイに言います。「他に息子はいますか？」（第一サムエル　16：11 参照）エッサイはこうです。「はい、実はいますが、違いますよ。絶対あり得ません。」「本当に？その子の名は？」「ダビデです。いやいや、あの子は...違いますって。」　「どこにいるのだ？」「お～羊の番をしていますよ。」英語の文章では、本当に強く書かれていますが、しかしヘブライ語では、さらに強力です。「今すぐ彼を捕まえて来なさい。いったい全体なぜ最初からここにいなかったのか？　すぐに行って捕まえなさい。彼が来るまでここを離れない。」なので彼らは行って、ダビデを連れてきます。「分かりましたよ～。」ちょっと大袈裟かもしれませんが彼らはダビデを捕まえに行き、連れてきます。大変臭く、汚く、たぶん「一体なんですか？」と不思議がっています。ダビデが現れ、案の定、「彼に間違いない。」そしてダビデが油注がれます。（第一サムエル　16：13）

皆さん、エリアブを想像できます？　隅の方で事の成り行きを見て、「私をからかっているのですか？あいつはチビ助ですよ。」その時実際には、何らかの対話があったはずです。記述にはありませんが、仮定できます。正しいと思います。対話があった筈です。サムエルも戸惑っていたと記録されています。「主よ、本当にこれでいいのですか？」主は彼の心を落ち着かせようと仰います。

「神は心をご覧になる。人はうわべを見るが、しかし神は心を見る。」(第一サムエル　6：7)
皆さん、その通りですね。私たちは、見た目で人を判断してしまいます。今の私がしているように、因みに、皆さん素晴らしいですよ。見た目だけですが。ポイントは、神は、あなたの心を見ておられます。それどころか、主は外見を気にされないとも言えます。何年も何年も前のこと、ああ、なんてことでしょう。私がベンツ社で働いていた時のことです。私は社用車としてベンツを使っていました。私は20代、いや20代前半でした。あのベンツのガソリン代も払えなかった。ましてや、あのメルセデスですよ。でも、私は運転することができました。かっこいいでしょう？　そこで当時、婚約者を乗せカルバリー・チャペルスポケーンに行きました。新品のメルセデスベンツで乗り付ける。とにかく、すみません。戻ってきました。パロミノ・レザーのあの香り。ほ～あの匂い、分かるでしょう？ところで、新車の匂いって知ってますか？　プラスチックです。乗り越えてくださいよ。ー(笑)ー　脱線しましたね。教会の前に車を停めると、男が走ってきて、ケリーの助手席のドアを叩きました「何だ？」と思いました。ちょっとだけ窓を下して、「こんにちは。」と言いました。彼は私を見て言いました。「なあ兄弟、僕を許してくれないか？」私はこんな風です。「一体何をしたんだい？」彼は言いました。「僕は、君を乗っている車で判断したんだ。君のような人が、こんな素敵で高価な車に乗るべきではないと判断をしたことを許して欲しい。」そう、まさにそこで…「お～本当に？言わないですよね～」「下がれサタン！」いえ、それは言いませんでしたが、自分自身に思いました。わお～うわべを見ることについて語ってる。あなたには、わからないでしょう。もちろん、愛情を込めて説明しました。私は敬虔な、神の若者だったのです。しかし彼に、まず第一に、これは私の車ではなく、社用車だと伝えました。この車の免許と登録料は払えないし、この車に入れるガソリンも買えない。その時、彼は本当に悪いと感じていたので、私は追い打ちをかけたんですよ。このことをどうしても伝えたかったからです。「悔い改めた方がいい。あなたを許す。」しかしとにかく彼は、つまり、全てうわべを見ているのです。私が何をしようとしているのか、もうお分かりですか？
これで言いたい方向があるからです。人々を見ると、外見で評価や判断をしませんか？　分からないですよ。皆さん、分からないですよ。教会の中だけでも、キリストにある兄弟、姉妹を見て、彼らがどんな車に乗って来たかは忘れてください。神は、彼らがどんな車に乗っているかなんて気にしておられません。神は、その人がどんな名前のブランドを持っていようと、気にされていません。神はそれを見ておられません。彼らが持っているものではなく、何が彼らを持っているかです。そういうものを持っていても良いんです。しかし、それらがあなたを支配している場合、よろしくありません。ですから、相手の外見を見ても、その人の人生で何が起こっているのかあなたには分かりません。しかし、神はご存知です。神は心をご覧になります。神はご自分の民の心を見ておられます。さて、15節に進む前に、非常に重要なことについてもう1つ。まもなく終わります。私たちの祈りの生活の中で、神に思い起こして頂くのが良いでしょう。神が忘れておられるのではありません。本当に私たちのためです。「主よ。あの時これをして下さった事を覚えています。あなたは昨日も今日も、永遠に変わらない神です。主よ、今あなたが必要です。あなたが私の人生において紅海を分けられたのを覚えているからです。私の人生で、あの奇跡を起こして下さった時のことを覚えています。あなたがこれをやって下さったのを覚えています。間違いなく、あなたがあれをやって、これをやって下さらないわけがありません。あなたが私をここまで連れて来られ、こう仰るわけありません。」神がこんな風なのが想像できますか？「おい、わたしがあなたをここまで導いた。あとは自分でしなさい。わたしは十分にやったよ。今度はあなたの番だ。」「そんな～やばい！どうしよう。どうしたらいいんだろう？」違います。神は決して私たちを置き去りにしたり見捨てた

りはされません。15 節、
イザヤ　63
15 どうか、天から見下ろし、ご覧ください。あなたの聖なる輝かしい御住まいから。あなたの熱心と力あるわざは、どこにあるのでしょう。私へのたぎる思いとあわれみを、あなたは抑えておられるのですか。
あ～ ほらほら。
16 まことに、あなたは私たちの父です。たとえ、アブラハムが私たちを知らず、イスラエルが私たちを認めなくても、主よ、あなたは私たちの父です。あなたの御名は、とこしえから「私たちの贖い主」。
17 主よ。なぜあなたは…
「なぜですか？」という言葉があります。
17 主よ。なぜあなたは私たちをあなたの道から迷い出させ、私たちの心を頑なにして、あなたを恐れなくされるのですか。あなたのしもべたち、あなたのゆずりの地の部族のために、どうかお帰りください。
18 あなたの聖なる民がこの地を所有して間もなく、私たちの敵はあなたの聖所を踏みつけました。
19 私たちは、とこしえから、あなたに支配されたこともなく、御名で呼ばれたこともない者のようです。
お～こんな風に終わっていなかったら良いのに。ここで何が起こっているか分かりますね？　これはとてもリアルで、とても生々しいです。この祈りは、この”なぜ”の質問です。「神よ、なぜですか？神よ、なぜこのようなことをお許しになるのですか？神よ、なぜこのようなことをしておられるのですか？私には理解できません。」それが「なぜ」という質問です。時に神は「なぜ」という質問に答える必要がないと思われます。神が答えたくないからではなく、お出来にならないからです。答えたら、より多くの「なぜ」という疑問を生じさせるのを、神はご存知だからです。神は無限のご存在で、私たちは有限です。限りあるものが限りないものを理解する事はできないからです。
「わたしはあなたが、神の理由、神の方法を理解していないのは分かっています。でも、あなたはただわたしを信頼するしかないのです。あなたはわたしを信頼するだけでなく、”なぜ”という疑問に答えなくても大丈夫と思う必要があります。」あなたの”なぜ”という疑問にもう 1 つ。ここで私が自分自身と議論しているように聞こえるかもしれません。それは、ここで自分との議論をしているからです。”なぜ”という疑問が出ると、自分自身に話します。あなたの”なぜ”という疑問は、本当は”なぜ”という質問ではないはずです。”何を”という質問のはずです。説明しましょう。主に「なぜですか？」と尋ねる代わりに、「何をですか？」と尋ねてください。
「主よ、あなたがこの中で私に見せたいものは何ですか？」
「主よ、なぜこれを許されるのですか？」ではなく、「主よ、何ですか？」です。
「なぜなら、明らかにあなたは、あなたの主権で、あなたの善良さで、優しさで、愛で、恵みで、憐れみでこれを許されているからです。」あなたがこれを許しておられるので、問題は「なぜですか？」ではないのです。
「この中で私が見なければならないものは何でしょうか？」
”なぜ？”ではなく、”何を？”私はここから学ばねばならないのでしょうか？　繰り返しますが、あなたは理由があってこれを許しておられるからです。”なぜ？”ではなく、”何を？”「その理由は何でしょうか？」私はそれが何かを知りたいです。そうすれば、この問題を解決することができます。日曜日に、その話をする予定です。因みに、日曜日「ヤコブの手紙」開始です。待ちきれません。「ヤコブの手紙」を開始す

るのにウズウズしています。しかし、試練の中で神と戦うことについて、少しお話します。皆さんがしないのは分かっています。皆さん、私よりずっと霊的ですから、自分に話しているのです。しかし、神と戦うことで「神よ、なぜ？なぜですか？」と質問することで、いたずらに試練を長引かせます。もしも私が、再度自分に話しています。もしも私が主に尋ねたら、「分かりました、主よ。”なぜ”ではなく、”何を”。早く終わらせたいのですが、 何をあなたは学ばせたいのですか？　何の学びですか？　私に見せられたいものは何でしょうか？　あなたが私に話されたいことは何ですか？　これを私の人生に受け入れることで、あなたが私に知らせたいことは何ですか？」それに行きつくのが早ければ早いほど、この「知る」という言葉が、「ヤコブの手紙」では非常に重要です。神が私たちの人生に、何を許されようとしているのかを知ることで、単なる喜びではなく、純粋な喜び、様々な試練に直面しても、純粋な喜びを感じることができるからです。それを日曜日にします。日曜日の説教はしませんよ。できればね。しませんよ。しかし、これは明らかに祈りの実例です。再度、正直なところ、何の問題もありません。神に”なぜ？”と尋ねることは悪いことではありません。しかし恐らく、 主に "なぜ？"と尋ねる代わりに、"何を？ "と尋ねる方がはるかに良いです。もう 1 つ、私たちが共に聖餐式に与かる前にさっと 17 節に戻りますが、17 節のように「なぜあなたは私たちをあなたの道から迷い出させたのですか？」という言い方で表現する場合、自分が何を言っているのか分かりますか？　そういうことを言うと、主の足元に責任を押し付けることになります。「お～わたしがあなたを迷わせたから、わたしの道から離れてしまった？　違います。あなたが離れてしまったのです。わたしがあなたに”なぜ”という質問をするべきです。なぜあなたはわたしの道から外れてしまったのか？　それが正しい質問です。」ついでに言えば、質問があったので先週もその話をしましたが、間違った質問に正しい答えを出すことはできません。神が正しい答えを出すためには、質問を正しくしなければなりません。

「なぜ神は、良い人に悪いことが起こるのを許されるのか」という文脈で話しました。質問が間違っています。

「正しい者（義人）は一人もいない。」（ローマ　3：10）

ですから、”なぜ？”ではなく、まるで泣き虫の子どもみたいなものですよ。特に自分の子どもではない場合です。 自分の子どもは躾けることができますから。そうしたくても、他人の子どもを躾けることはできません。なぜ？なぜ？なぜ？なぜ？　アイアイアイアイアイアイ　なぜ？なぜ？なぜ？なぜ？　わたしがそう言ったのだからそうなのだ！！！　OK。ごめんなさい。それは、この御言葉が語ることではありません。酷い親ですね。しかし、”なぜ？”と言う時、どうですか？　そう、繰り返しますが、質問が間違っています。「なぜ神は悪いことが起こるのを許されるのか？」ではなく、「なぜ神は悪い人に良いことが起こるのを許されるのか？」です。それが正しい質問です。これで、正しい答えを出すことができます。この質問（なぜ？）は、すべてのレベルで間違っています。

「主よ、なぜあなたは私たちを迷わせたのですか？」「わたしがあなたをわたしの道から迷わせたのではありません。あなたが、わたしの道から外れてしまったのです。わたしがあなたに”なぜ？”と聞きたいです。」「”私たちの心を頑なにして”？　わたしがあなたの心を頑なにしたわけではありません。あなたが心を頑なにしたのです。なぜですか？」聖霊の導きのままに、その道（話）を進んでいけます。良い終わり方をしませんよ。しかしそれを止めることができます。再度、現実で、ありのままで、正直なのは分かっています。神がそれを扱うことが御出来になります。皆さん、そんな風に考えたことがあるかどうかは分かりませんが。確かに私は、長年に渡り神に”なぜ”という質問をたくさんしました。”なぜ”という質問を

する多くの方、私はその答えを持っていません。事実、その内の 1 つが現在です。実は、このことについて日曜日の「聖書預言・アップデート」で少しお話をする予定です。私は主に問いかけてきました。もっと牧師的に聞こえますよね？　主に”なぜ？”と問いかけてきました、って凄く敬虔ですね。そう、皆さん私の心を知っていたなら、、、それはうわべのことですね？しかし、私は主に問いかけてきました。「主よ、私はただ、、、」私は主に尋ねました。私は主に尋ね、求め、叩き、そして粘り強く続けます。
「主よ。なぜ人々がこんなにも病気になっているのか理解できません。」つまり、注射しているかどうかにかかわらず、多くの人が病気になっています。「私にはなぜか分かりません。私にはなぜか分かりません。」これがこの問題の結論です。神は仰います。「わたしはなぜか知っています。あなたは、わたしがなぜかを説明しなくても大丈夫でなければなりません。わたしは自分が何をしているか分かっています。あなたはわたしが何をしているか分からないでしょうが、わたしは自分が何をしているか分かっています。」「主よ、なぜそれらを許しておられるのですか？彼らが入院してから 2 ヶ月が経過しています。なぜですか？」「あなたは、神がなぜか？に答えられないことや神のご方法を受け入れる必要があります。」
17 節に戻ってみると、非常に面白いことが分かります。”私たちをあなたの道から迷い出させ、”神の理由と方法は？　なぜ私たちは神の道から外れてしまうのでしょうか？　神の「なぜ/理由」が分からないからです。それが、私たちを神の道から外れさせてしまうのです。では、今から、、、あ～あの時計が嫌いです。天には時計がありませんからね。必要ありませんもん。そんな風に考えたことはありますか？待ちきれませんよね。目覚まし時計を燃やすパーティーでもやろうかと思っています。気にしないでください。分かりました。そう、私はいつも聖餐式を楽しみにします。ただ忘れないようにするため必要な時間なのです。また「忘れないようにする/覚える」という言葉が出てきましたね。これからお話ししていきます。イエスが私たちのためになさったこと私たちのために、私たちの代わりに死なれたことを忘れないようにする/覚える。「ルカの福音書の 22 章」に、親しみを込めて「最後の晩餐」と呼ぶ記述があります。14 節、ルカが聖霊によって記しています。
ルカ　22
14 その時刻が来て、イエスは席に着かれ、（12 人の）使徒たちも一緒に座った。
15 イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をすることを、切に願っていました。
16 あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をすることは、決してありません。」
これは預言的に、将来の子羊の婚宴について語っておられると信じます。今夜、私たちがしようとしていることは、子羊の婚宴で、主とともに与る時、究極の形で成就するのです。
17 そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの間で分けて飲みなさい。
18 あなたがたに言います。（仰るのは 2 度目）今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、決してありません。」
19 それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。わたしを”覚えて”、これを行いなさい。」
わたしを”覚えて”ここにおられる方は、聖餐式セットの上部を開けて、パンを取ってお待ちください。
先ほど学んだ章で、「思い出す/覚える」に重点が置かれています。主がなさったことを思い出すことで

す。なぜそれが重要なのか？　私たちが忘れてしまうからです。完全に忘れているわけではありませんが、自分が救われていることを忘れているような生活をします。どういう意味か？　そう、時に、特に今の時代は困難な時で、これからも、さらに困難な状況が続くと思われますが、私たちは大体 悩んだり、恐れながら生きていて、このままではいけないのを忘れています。聖餐式に与る事は、私たちを元に戻すためで、私たちを正気に戻し、事の真実を思い出すためです。事の真実とは、私たちが救われている事。もうすぐ、もうまもなく、あのラッパが鳴り響き、生き残っている私たちは引き上げられ、携挙され、空中で主と会うのです。そしていつまでも主と共にいることになります。（第一テサロニケ　4：16-17）
私がそれを忘れず覚える時、特にこんにちのような時代は、頻繁に、毎日それを思い起こす必要があります。「お～そうだった。お～主よ、ありがとうございます。主よ、感謝します。救われている事に感謝します。あなたが来てくださって、私のためにあなたの体が砕かれ、私が永遠にあなたと一緒にいられるよう、私のために血を流してくださったことを感謝します。」神が、私たちが覚えるよう、これ（聖餐式）を与えてくださったのを嬉しく思いませんか？　なぜなら、想像してみてください。毎月第一木曜日にお祝いするこの時間がなかったら？　これをしていなかったらどうなるか、想像してみてください。つまり、私たちは、、、ええ、私はやりすぎますね。賜物ですが、止めておきます。しかしこれ（パン）は、私たちの代わりに、私たちのために砕かれた、イエス・キリストのお体の象徴です。一緒にいただきましょう。主よ、ありがとうございます。主よ、本当にありがとうございます。もう一度、ありがとうございます。ただ、とても不十分なようですが、（神の国が来る）”までは”とこの過越の祭りで、あなたが２度仰ったのは、本当に預言的な過越の祭りの実現です。あの夜、あの上の部屋で２度、あなたは仰ったのです。「わたしの王国で、このことが成就するとき、わたしたちが共に与かる”までは”」それはまるで、あなたが今の私たちに、楽しみにし、方向転換し、待ちうける事を思い出させるのを望んでおられるように、当時の彼らに望んでおられたように思います。”～までは”が、もはや”～までは”ではない時、その”～までは”が、実現します。主よ、私たちも、あなた同様、熱烈に望み、その日を待ち望んでいます。主よ、ありがとうございます。ルカが続けて言います。
ルカ　22
18 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。
ここにおられる方は、聖餐式セットの下の部分を開け、杯を持って、お待ちください。私はいつも、この手にしている象徴の最重要性に気づかされます。イエス・キリストの血の象徴です。これが血による新しい契約です。なぜこれほどまでに重要なのでしょうか？　理由は、
「血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。」（ヘブル　9：22）
聞いてください。この主の血の象徴が、私たちの罪の問題を解決します。私たちには罪の問題があります。なぜなら、、、これが意味深なのは分かっていますが、私たちは罪を犯します。今でも、これからも、いつか私たちがこの朽ちる体を脱ぎ捨て朽ちない体を纏う”までは”しかし、この肉にいる限り、私たちは罪を犯します。使徒ヨハネが言いました。
「もし罪を犯したことがないと言うなら、あなたは偽り者です。あなたは嘘つきです。嘘つき。」（Ｉヨハネ　1：10）
私たちには罪の問題があります。今、手にしているこの象徴が、私たちの罪の問題を完全に解決します。血が流されることが罪の赦しに、私たちの罪の赦しになるからです。今夜、それを祝うのです。これにつ

いてもう１つ、お付き合いください。これは非常に大きな意味があります。あらゆる罪が支払われたからです。「イザヤ書」にあるあの約束、御言葉の通り、
主は、東が西から遠く離れているように　あなたの背きの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。（イザヤ　43：25 参照）
もう罪（Sin）を思い出されず、御子（Son）を覚えておられる。父なる神は私たちの罪をご覧にならずに、ご自分の御子イエスをご覧になるのです。御子イエスの血が流され、血による新しい契約であり、罪を支払って下さったのです。ですから神は、もはや私たちの罪をご覧になりません。御子イエスをご覧になります。皆さん、安心しましたか？　私は安心します。罪は、数えてみれば、今日だけでもどうですか？そんな風に私を見ないでください。今日の私の罪、それが何かは言いませんよ。そんなに悪くないですが、もちろん私は牧師ですからね。でも、あらゆる罪が、あらゆる心の中の罪が、あらゆる罪が赦され、支払われています。イエスの血潮が流されたからです。共に与かる事で、イエス・キリストの流された血のゆえに、赦されない罪はないということを、私と一緒に覚えておいてください。敵に、蒸し返し続けさせてはいけません。支払われているのです。「そのためには、君が支払う必要があるぞ。」いいえありません。イエスが既に支払われました。支払い済です。私は赦されています。「でも君はまだやってるじゃないか。」 分かっています。神もご存知です。それも支払われています。あなたは、私の申し開きを見るべきです。滞納はしていません。主の血潮のおかげで前に進めます。未来の罪も支払われています。網羅されています。支払い済です。私は赦されています。一緒に与る際、それをしっかり理解してください。一緒にいただきましょう。カポノ、上がってきてください。ご起立ください。私は祈りで締めくくり、カポノは賛美で締めくくります。あぁ、時間オーバーしないようトライしたのにね。皆さんご忍耐に感謝します。１章だけで、しかも短い章なのにね。
天のお父様。心から感謝します。主よ、あなたを覚えるよう、私たちに聖餐式をさせて下さりありがとうございます。今夜ここでしたことを忘れず、あなたがして下さったことを忘れません。そうすることで、私たちが決して忘れないのが、～したら、ではなく、～する時、私たちがあなたと一緒に与る時、これが究極の成就をする時、お～どれほど素晴らしいのでしょうか。高尚過ぎて理解できません。それがどのようなものなのか、私たちには到底理解できません。ですから主よ、実現する時、何が起こるかを理解するため、今私たちに、聖餐式を与えて下さった事を感謝します。最後に主よ。マラナタ。主イエスよ、早く来てください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7